



4.8 SR8 のインストールとアップグレードガイド

2017年1月17日

クリック [ここに](#) このドキュメントの最新バージョン。

EN.100.002-V4.8.C8 (2)

ン

革新的なソリューション

Genetec

著作権表示

©ゼネテック株式会社、2015。

ゼネテック社は、エンドユーザー使用許諾契約を含むライセンスの下で提供されており、唯一のライセンス契約の条件に従って使用することができるソフトウェアで、この文書を配布しています。このドキュメントの内容は著作権法により保護されています。

このガイドの内容は情報提供のみを目的と予告なく変更することがあります。ゼネテック Inc.は、本マニュアルにおけるいかなる誤謬または不正確な記述に対しても一切の責任を負いません。

この公報には、コピー、変更、または任意の形式、あるいは任意の目的のために再現し、また任意の派生作品はゼネテック Inc.の事前の書面による同意なしに、そこから作成することができますされない場合があります。

ゼネテック株式会社は、それが適切と考えるようにその製品を改訂し、改善する権利を留保します。この文書は、文書の最後のリビジョンの時に商品の状態を説明し、将来的にはすべての回で製品を反映していないかもしれません。

いかなる場合においてゼネテック株式会社は、本明細書に記載し、この文書またはコンピュータソフトウェアおよびハードウェア製品で見つかった命令に応じへの偶発的または必然的である損失または損害に関して、いかなる個人または団体に対して責任を負うものとしません。このドキュメントの使用は、エンドユーザー使用許諾契約で見つかった責任の免責事項の対象となります。

"ゼネテック"、"の Omnicast"、"SYNERGIS"、"AUTOVU"、"連邦"、"STRATOCAST"、"SIPELIA"、"CITYWISE"、との Omnicast、Synergis、AutoVu、および Stratocast のロゴは、ゼネテック Inc.の商標です。登録またはいくつかの国での登録を保留することができます。

この文書で使用されているその他の商標は、それぞれの製品のメーカーやベンダーの商標である場合があります。

すべての仕様は予告なく変更することがあります。

ドキュメントの情報

ドキュメントタイトル：の Omnicast 4.8 SR8 のインストールとアップグレード

ガイドドキュメント番号：EN.100.002-V4.8.C8 (2)

更新：2017年1月17日

技術サポート

ゼネテックの Technical Assistance Center (GTAC) が利用可能な最善の技術サポートサービスとの世界的な顧客を提供することにコミットしています。ゼネテックの顧客として、あなたが情報を見つけて、あなたの製品に関する質問への回答を検索することができます。ゼネテックテクニカル・アシスタンスポータル (GTAP)、へのアクセス権を持っています。

- **ゼネテックテクニカル・アシスタンスポータル (GTAP)**。GTAP は、よくある質問、ナレッジベースの記事、ユーザーガイド、サポートされているデバイスのリスト、トレーニングビデオ、製品のツール、および大いに多くのように、綿密なサポート情報を提供するサポートサイトです。
GTAC に接触したりサポートケースを開く前に、潜在的な修正、回避策、または既知の問題については、このウェブサイトを見てすることが重要です。あなたは GTAP にログインするかサインアップすることができます [HTTPS : //gtap.genetec.co](https://gtap.genetec.com) メートル。
- **ゼネテック技術支援センター (GTAC)**。あなたは GTAP であなたの答えを見つけることができない場合は、オンラインでサポートケースを開くことができます <https://gtap.genetec.com>。お住まいの地域で GTAC の連絡先情報については、お問い合わせページをご覧ください <https://gtap.genetec.com>。
注意 GTAC に連絡する前に、(クライアントアプリケーション内についてのボタンから入手可能)、あなたのシステムの ID とあなたの SMA 契約番号 (該当する場合) をご用意ください。
- **ライセンス**
 - ライセンスアクティベーションまたはリセットするために、GTAC でお問い合わせください <https://gtap.genetec.com>。
 - ライセンスコンテンツまたは一部の番号、または順序についての懸念の問題については、次のゼネテックカスタマーサービスまでご連絡ください customerservice@genetec.com、または 1-866-684-8006 (オプション #3) を呼び出します。
 - デモ・ライセンスを必要とするか、または価格設定に関する質問がある場合は、ゼネテック営業までお問い合わせください sales@genetec.com、または 1-866-684-8006 (オプション #2) を呼び出します。

その他のリソース

あなたはゼネテックの Technical Assistance Center 以外の追加のリソースが必要な場合は、次のように利用することができます：

- **GTAP フォーラム**。フォーラムは、クライアントとゼネテックスタッフが相互に通信し、技術のヒントに技術的な質問に至るまで、さまざまなトピックを議論することを可能にするメッセージボードを使用して簡単です。あなたは、ログインまたはサインアップすることができます <https://gtapforum.genetec.com>。
- **技術研修**。プロの教室の環境で、または独自のオフィスの利便性から、私たちの資格のトレーナーは、システム的设计、設置、運用、およびトラブルシューティングをご案内することができます。技術的なトレーニングサービスは、すべての製品のためにと技術的な経験の様々なレベルでの顧客のために提供されており、特定のニーズや目的に合わせてカスタマイズすることができます。詳細については、にアクセスしてください <http://www.genetec.com/English/Support/Training>。

目次

1	前書き	6
2	システム要求	6
3	相互運用性	6
3.1	サポートされている連盟	6
3.2	セキュリティセンターの相互運用性 ヴェイム	6
4	ウェア	6
5	Omnicast 4.8 SR8 のインストール	7
5.1	あなたがインストールする前に	7
5.1.1	Omnicast サーバーの前提条件	7
5.1.2	Web アプリケーションの前提条件	7
5.2	Omnicast 4.8 SR8 Server のインストール	8
5.2.1	サーバ管理の設定	13
5.2.2	あなたの Omnicast ライセンスをアクティブ化	16
5.3	Omnicast 4.8 SR8 クライアントのインストール	18
5.3.1	Windows 2008 の R2 用のデスクトップエクスペリエンス機能をインス トールします。	20
5.3.2	Windows の 2012 R2 用のデスクトップエクスペリエンス機能をインス トールします。	20
6	ソフトウェア言語を変更します	21
7	以前の Omnicast のバージョンからのアップグレード	21
7.1	サポートされているアップグレードパス	21
7.2	あなたはアップグレードする前に	21
7.3	4.8 SR8 への Omnicast 4.x からのアップグレード	22
7.3.1	アップグレードサーバー	22
7.3.2	アップグレードプラグイン	22
7.3.3	アップグレードクライアント	23
8	サイレントの Omnicast のインストールの実行	23
8.1	インストールと旧ソフトウェアバージョンからのアップグレード	24
8.2	サイレント・インストールのメカニズム	24
8.3	あなたが始める前に	24
8.4	コマンドラインを使用	25

9	サイレントインストールコマンドライン構文	26
9.1	基本的な構文	26
9.2	セットアップの引数	26
9.3	インストーラの引数	27
10	サイレントプロパティをインストールします	27
11	サイレントインストールの例	34
11.1	例をサイレントインストールサーバー	34
11.2	クライアントのサイレントインストールの例	35
12	サイレントインストールの制限	35
12.1	コマンドライン文字制限	35

1 はじめに

この文書では、の **Omnicast** ソフトウェアとどのように以前のバージョンからソフトウェアをアップグレードするためのインストール方法について説明します。

2 つのシステム要件

Omnicast 4.8 システム要件文書の場合は、クリックしてください [ここに](#)。

3 相互運用性

このセクションでは、の **Omnicast 4.8 SR8** は **Omnicast** の以前のバージョンとし、セキュリティセンターでどのように機能するかについて説明します。

3.1 サポートされている連盟

Omnicast 4.8 SR8 は、以下のシステムを連携することができます：

- **Omnicast 3.5、4.0、および 4.1**（ライブ映像のみ）
- **Omnicast 4.2、4.3、4.4、4.5、4.6、4.7、および 4.8**（全機能）

Omnicast 4.8 SR8 は **5.2**、バージョン **5.1** に統合することができ、およびセキュリティセンターの **5.3** の **Omnicast 4.8** 互換機能パックを使用しました。セキュリティセンターのための **4.8** 互換機能パックのインストールの詳細については、セキュリティセンターのインストールを参照し、ガイドをアップグレードします。

3.2 セキュリティセンターとの相互運用性

重要 **5.3** アーカイバの役割はどこのマシンでホストすることができないセキュリティセンター **5.1、5.2、Omnicast 4.x** のアーカイバがインストールされています。

Omnicast 4.8 SR8 は、セキュリティセンターの次のバージョンと同じサーバー上に共存させることができます。

- **セキュリティセンター4.0、5.0、5.1、5.2、および 5.3。**

4 VMware の

あなたは、通常のインストール中に実行と同じ手順に従って、**VMware** 環境での **Omnicast** をインストールすることができます。

- **Server** のインストールについては、「**Omnicast 4.8 SR8 Server のインストール**」ページの **8**。すべての **Omnicast** サービスが仮想環境にインストールすることができることに注意してください。
- クライアントのインストールについては、「**Omnicast 4.8 SR8 クライアントのインストール**」ページの **18**。

注意：仮想環境での **Omnicast** を実行すると、パフォーマンスが影響を受けます。

5 インストールの Omnicast 4.8 SR8

5.1 インストールする前に

5.1.1 の Omnicast サーバーの前提条件

あなたが Windows 7 を使用している場合は、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 を有効にする必要があります (オン)

Omnicast Server のインストールの前に。それがオフになっている場合は、しかし、デフォルトでは通常です。

1. [スタート]> [コントロールパネル]> [プログラムと機能]をクリックします。
2. プログラムと機能]ウィンドウでは、Windows の機能の有効化または無効をクリックします。
3. Windows の機能]ダイアログボックスでは、Microsoft .NET Framework 3.5.1 オプションを選択します。
4. [OK]をクリックします。

5.1.2 Web アプリケーションの前提条件

あなたは Omnicast の Web アプリケーション (ウェブライブビューアおよび Web アーカイブプレーヤー) をインストールしたい場合は、以下の操作を行う必要があります。

- あなたの信頼済みサイトへの Web クライアントの http アドレスを追加します ([ツール]> [インターネットオプション]> [セキュリティ]> [信頼済みサイト]> [サイト])。Web クライアントのアドレスは次の構文を使用します。http://ウェブアプリケーションサーバのホスト名または IP アドレス/クライアント。あなたは孔子という名前のサーバー上の Web アプリケーションをインストールしようとしている場合たとえば、あなたが追加することになります。http://孔子/クライアントを信頼済みサイトに。

- あなたは、インターネットに接続している場合は、Web アプリケーションは、前提条件がインストール中に自動的にダウンロードされます IIS。\\サーバー\ISSetupPrerequisites : 利用可能なインターネット接続がない場合は、あなたが不足しているすべての前提条件は、次のフォルダに Omnicast の DVD に収録されています。

注意 : あなたは、Windows XP または Windows 2003 を使用している場合は、IIS の前提条件をインストールするには、Windows のインストール CD が必要になります。

- あなたが Web クライアントを実行するコンピュータ上で 32 ビット Java SE 7 のアップデート 45 をインストールします。32 ビット Java SE 7 は、の Omnicast InstallShield と共に設けられています。

注意 : Omnicast の Web クライアントは、64 ビットの Java をサポートしていません。

5.2 の Omnicast 4.8 SR8 Server のインストール

初めての Omnicast Server をインストールしている場合は、この手順に従ってください。

1. お使いのコンピュータの DVD ドライブでの Omnicast インストール DVD を挿入します。InstallShield ウィザードが表示されない場合は、Omnicast のルートディレクトリに `setup.hta` をダブルクリックします。
2. InstallShield ウィザードでは、[サーバーのインストール]をクリックします。



3. 必要な場合は、不足している前提ソフトウェアをインストールするには、画面の指示に従ってください。

あなたは、前提条件のインストールの途中で再起動を求められる場合があります。再起動が要求されている場合は、インストールを完了するために行う必要があります。システムが再起動した後、残りの前提条件がインストールされています。

注意：インストールするための前提条件の配列に応じて、インストールを再起動する必要があります。

4. 前提条件ソフトウェアのインストールが完了したら、[次へ]をクリックします。
5. 読み、使用許諾契約に同意し、[次へ]をクリックします。
6. Omnicast サーバーが使用する言語を選択し、[次へ]をクリックします。

インストール後に別のソフトウェア言語に変更するには、言語ツールを使用しています。あなたの Omnicast ライセンスを使用すると、選択した言語を使用できるようにする必要があります。ドロップダウンリストで言語の可用性は、必ずしもあなたがそれを使用するためのライセンスを持っているという意味ではありません。

選択した言語を変更する方法については、「を参照してください。 [ソフトウェアを変更します 言語](#) ページ上 21。

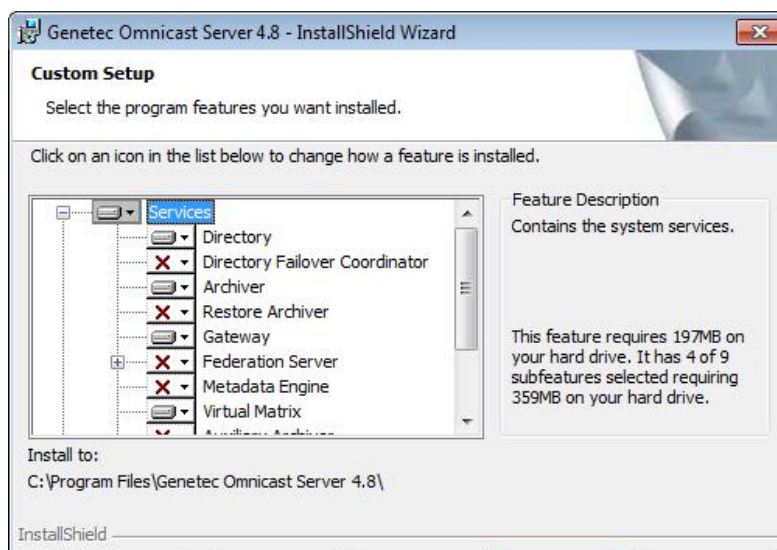
7. デフォルトのインストールフォルダを選択し、[次へ]をクリックします。別のインストールフォルダを選択するには、[変更]をクリックします。

注意：関係なく、あなたがソフトウェアをインストールすることを選択した場所の、あなたは少なくとも 6 GB が必要です

あなたの C の空き領域の GB : ドライブ (またはどこに \Windows がインストールされています)。そうでない場合、InstallShield はあなたが十分な空き領域がないというメッセージが表示されます。

8. タイプ選択]ウィンドウで、典型的な、アーカイバ、またはカスタム・インストール・タイプを選択します。
- **典型的な** 最も頻繁に使用されるサーバコンポーネント（ディレクトリ、ゲートウェイ、アーカイバ、仮想マトリックスおよびウォッチドッグ）をインストールします。
 - **アーカイバ** アーカイバとしてのみ動作し、サーバに必要なすべてのコンポーネントをインストールします。
 - **カスタム** あなたがインストールするプログラムの機能を選択することができます。このオプションは、上級ユーザーにお勧めします。あなたは、次の機能をインストールすることができます。
 - ディレクトリ
 - ディレクトリのフェイルオーバー・コーディネーター
 - アーカイバ
 - アーカイバを復元
 - ゲートウェイ
 - フェデレーションサーバー（およびすべてのコンポーネント）
 - メタデータエンジン
 - 仮想マトリックス
 - 補助アーカイバ
 - **Web** アプリケーション
 - ツール（ディスクバリーツール）
 - オンラインヘルプ（あなたがサーバ管理で **F1** をクリックしてオンラインヘルプにアクセスすることができます）
9. カスタムインストールを選択した場合は、インストールの選択肢のリストを表示するには、サービスの横のプラス記号をクリックしてください。

各機能は、機能の左にあるアイコンを選択してインストールする方法を選択してください。あなたはすべてのサービスをインストールしたい場合たとえば、サービスの横にあるアイコンをクリックして、この機能をクリックして、すべてのサブ機能は、ハードドライブにインストールされます。



10. [次へ]をクリックします。

11. **Windows** にログオンするための **Omnicast** サービスで使用するユーザ名とパスワードを指定します。

あなたは、デフォルトのユーザ名とパスワード (**OmnicastSvcUsr**) を使用するか、独自に指定するかを選択できます。あなたがあなた自身を指定した場合は、次のように、構文は次のとおりです。

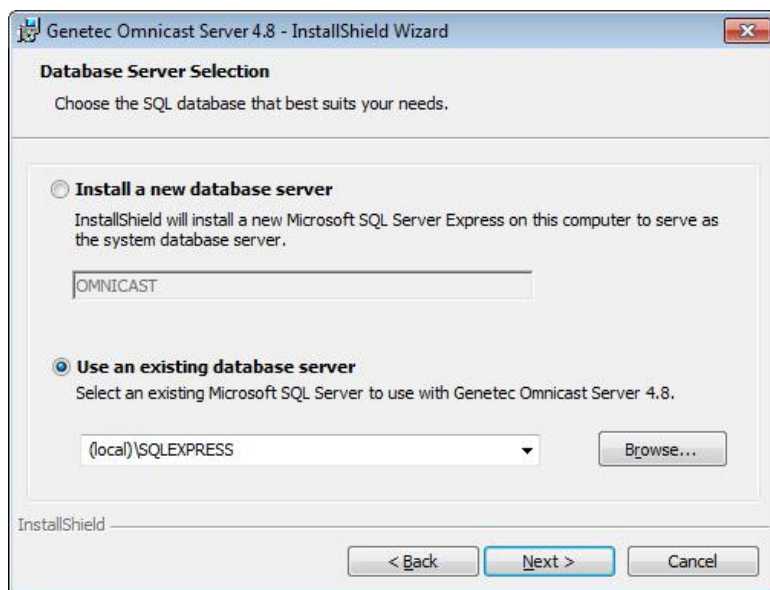
- ドメイン\ユーザー名：ドメインのメンバーであるユーザーのために。
- コンピューター名\ユーザー名またはユーザー名：ローカルユーザーのために。

選択したユーザーには、「サービスとしてログオン」ユーザー権利を持っている必要があります。ローカルユーザーは、**Administrators** グループのメンバーである必要があります。

12. 前の手順でディレクトリのフェイルオーバー・コーディネーターのインストールを選択した場合は、このコンピュータはプライマリ **Directory** サーバやバックアップディレクトリサーバとして使用するかどうかを指定する必要があります、[次へ]をクリックします。

あなたがバックアップディレクトリサーバを選択した場合は、ローカルゲートウェイが接続する必要があること、そしてそれがディレクトリまたは別のゲートウェイに接続する必要があるかどうか、マシンの名前を指定する必要があります。

13. データベースサーバーの選択]ウィンドウで、次のいずれかを実行します。



- **SQL** データベースサーバーがコンピュータにインストールされていない場合は、新しいデータベースサーバーのインストール]を選択します。このオプションは、コンピュータ上の **Microsoft®SQL Server 2008 R2** の **Express Edition** をインストールし、データベースインスタンスを作成します。デフォルトでは、の **Omnicast** と呼ばれていますが、必要に応じて名前を変更することができます。
- **SQL** データベースサーバーがコンピュータにインストールされていて、このデータベースを使用したい場合は、既存の **SQL** データベースサーバを使用する]を選択。データベースサーバーのリストでは、既存の **SQL Server** の名前を選択します。たとえば、次のように入力します。 **PCNAME** は、ゲートウェイが常駐し、 **SQLEXPRESS** はデータベース・サーバー・インスタンスの名前であるサーバーコンピュータの名前で **PCNAME \ SQLEXPRESS** を、。 **SQLEXPRESS** は既定のデータベース名です。

- あなたは、リモートマシン上の既存のデータベースサーバーを使用している場合は、ユーザー名に指定されていることが重要です **ステップ 11** そのサーバーにアクセスする権利を持っています。

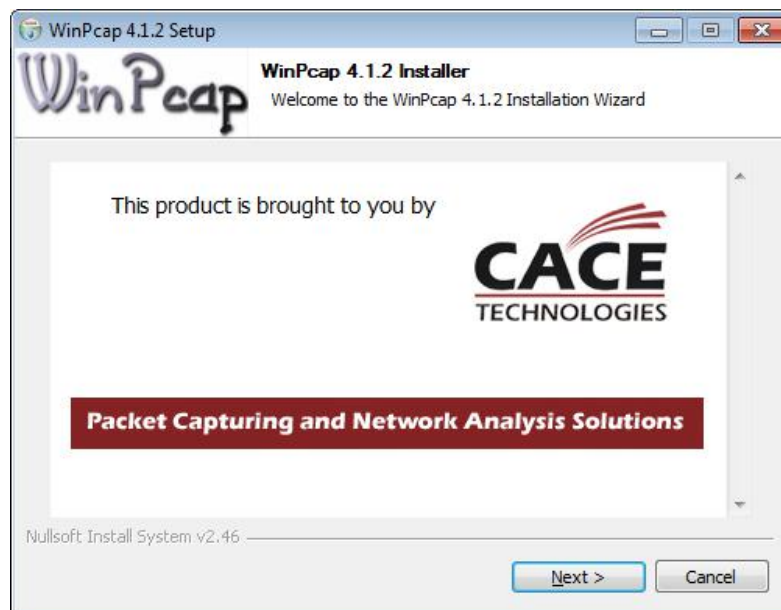
14. [次へ]をクリックします。

15. ファイアウォールルール]ウィンドウで、そのアプリケーションのオプションのために必要なファイアウォールルールを作成することを許可しゼネテックの **Omnicast** サーバー4.x を選択します。

インストールされているすべてのサーバ・アプリケーションとそのデフォルトポートをファイアウォールの例外として追加されていることを確認するには、このオプションを選択します。

16. WinPcap のインストール]ウィンドウで、インストールの **WinPcap 4.1.2** オプションを選択します。このオプションは、**Omnicast** の中にユニットや他のサービスのための診断データをキャプチャすることができます。ネットワークパケットキャプチャを作成の詳細については、「ネットワークパケットキャプチャ」を参照して **Omnicast** の管理者ガイドの「ネットワーク接続の診断」。

WinPcap の 4.1.2 インストールウィザードが開きます。



17. WinPcap のインストールウィザードでは、インストール手順に従います。

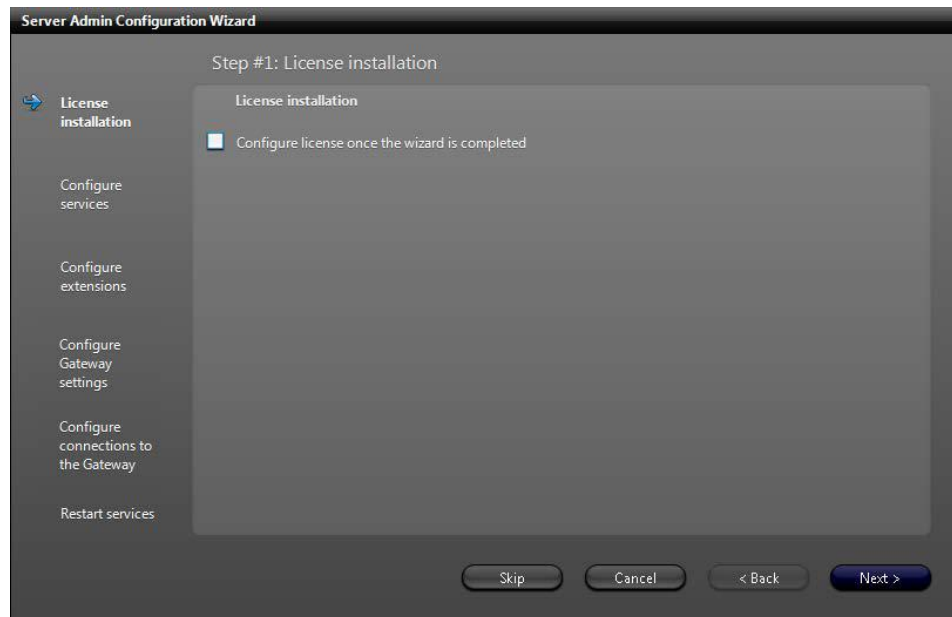
18. インストールオプション]ウィンドウで、自動的に選択し、起動時オプションで WinPcap のドライバを起動し、[インストール]をクリックします。

19. [完了]をクリックし、の **Omnicast Server** のインストールを続行します。

20. **Omnicast** の InstallShield ウィザードで、[インストール]をクリックします。

注意：あなたは、ウォッチドッグ・コンソールへのフルアクセスを持っている **Telnet** クライアントを有効にするかを尋ねるメッセージが表示されることがあります。このメッセージは、唯一のリマインダーです。インストールを続行するには、[OK]をクリックしますが、インストール完了後に **Telnet** クライアントを有効にしてください。

サーバ管理設定ウィザードは、インストールが完了する直前に開きます。



21. サーバ管理設定ウィザードでは、あなたの **Omnicast** ライセンスをアクティブ化して **Server Administrator** のサービスを設定します。

あなたのライセンスをアクティブ化し、後でサーバ管理を設定することを選択できますが、ライセンスがアクティブ化されるまで、あなたのシステムにアクセスすることはできません。

- 、後でサーバ管理を構成するサーバ管理構成ウィザードが閉じるまでスキップをクリックして、を続行するには [ステップ 22](#)。
- 今サーバ管理を設定するには、「にアクセスしてください[サーバ管理の設定](#)」ページの [13](#)。

22. サーバ管理を閉じます。

23. **InstallShield** ウィザードでは、インストールを完了し、[完了]をクリックします。

このコンピュータにインストールされているすべてのサービスは、サーバ管理の左側のペインに表示されるエンティティツリーにシステムの下に表示されます。

重要 あなたは、あなたのシステム内のすべてのエンティティ（ユーザー、カメラ、サイトを設定した後、アラームなど）、あなたのシステム構成データベース（**DirectorySQL**）をバックアップする必要があります。

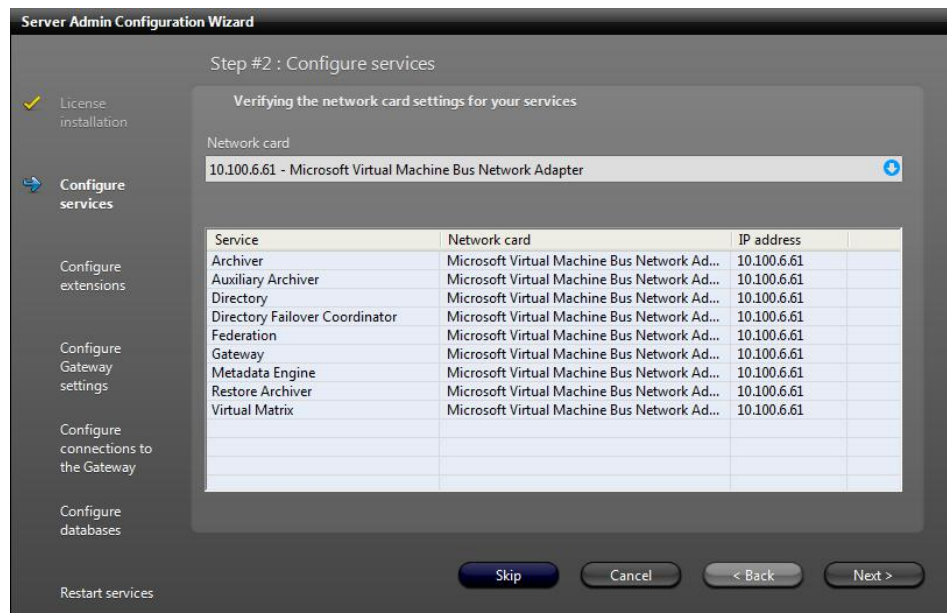
5.2.1 サーバ管理の設定

サーバ管理設定ウィザードを使用すると、サービスや拡張機能、ディレクトリとゲートウェイの接続、およびデータベースのためのライセンス、ネットワークカードの設定を構成するのに役立ちます。このウィザードでは、あなたの **Omnicast** のインストール時にサーバ管理にアクセスする最初のときに表示されます。その後、あなたはサーバ管理の[ツール]メニューからいつでもウィザードにアクセスすることができます。

重要 あなたがクリックしたとき **次** ステップのいずれかで、あなたの変更は、すぐには適用されません ウィザードの最後に。設定手順をスキップするには、ページのいずれかにスキップをクリックしてください。

サーバ管理を設定するには：

1. サーバ管理設定ウィザードを開きます。
 - あなたは **Omnicast** のサーバーをインストールする場合は、このウィザードが自動的に開きます。
 - すでに **Omnicast** のサーバーをインストールしている場合は、サーバ管理で [ツール]> [サーバ管理構成ウィザード]をクリックします。
2. ステップ #1 では：ライセンスのインストール、次の手順を実行します。
 - あなたがサーバ管理の設定が完了した後にライセンスをアクティブ化するには、ウィザードが完了すると、構成のライセンスをクリックし、[次へ]をクリックします。
3. ステップ #2 では：インストールされているすべてのサービスが同じネットワークカードを使用していることを確認し、サービスを構成します。



すべてのサービスがすでに同じネットワークカードを使用している場合は、ネットワークカードのフィールドに表示されます。別のネットワークカードを選択するか、いないすべてのサービスが同じネットワークカードを使用している場合は、ネットワークカードのドロップダウンリストから選択し、[次へ]をクリックします。

4. (アーカイバがインストールされている場合のみ)、ステップ#3: インストールされたすべての拡張機能は、同じネットワークカードを使用していることを確認し、拡張子を設定します。

注意: このステップでは、あなたの Omnicast のライセンスが有効な場合にのみ使用可能で、[ツール]メニューから[サーバ管理設定ウィザードにアクセスしています]。

すべての拡張機能は、すでに同じネットワークカードを使用している場合は、ネットワークカードのフィールドに表示されます。別のネットワークカードを選択するか、すべての拡張機能は、同じネットワークカードを使用しているではない場合は、ネットワークカードのドロップダウンリストから選択し、[次へ]をクリックします。

5. ステップ#4で (ゲートウェイがインストールされている場合のみ) : ゲートウェイの構成設定は、次の手順を実行します。

- a) **Directory** またはゲートウェイへの接続タイプを設定します。

ゲートウェイのデフォルトの接続タイプはディレクトリです。ゲートウェイが接続されている現在のディレクトリ/ゲートウェイの名前が下に表示されます。

- b) デフォルトの下でのリダイレクトの種類を設定し、自動検出、ユニキャスト UDP、マルチキャスト、または無効への接続をサポート。

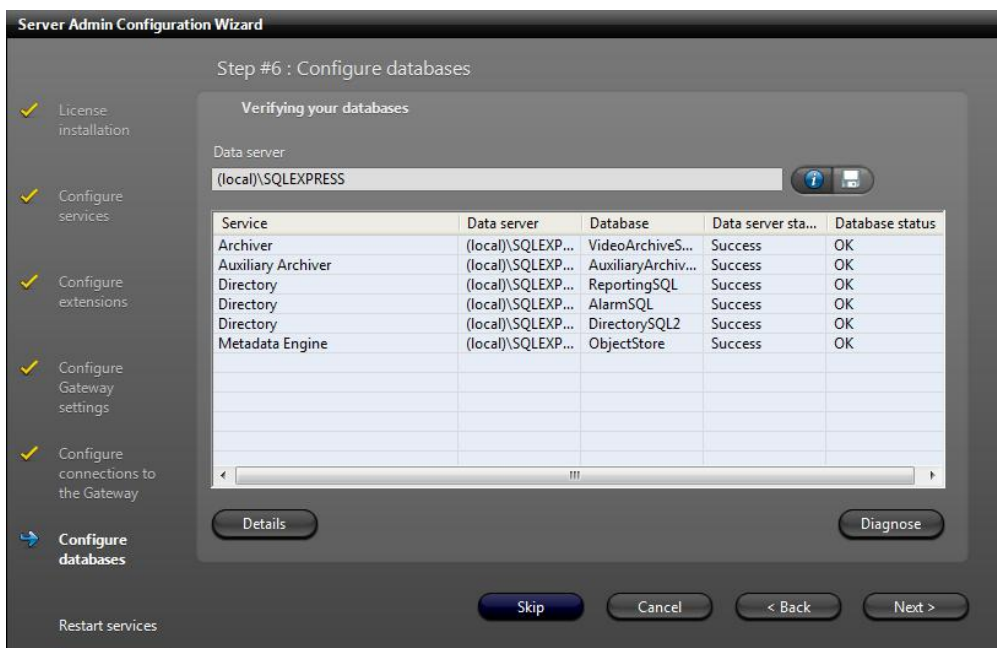
デフォルトのリダイレクトの種類は自動検出です。

6. ステップ#5で : ゲートウェイへの接続を設定し、インストールされているすべてのサービスが同じゲートウェイの設定を使用していることを確認してください。

- すべてのサービスが同じゲートウェイを使用しているいない場合は、からいずれかを選択 **ゲートウェイ** 落ちる リストし、[次へ]をクリックします。



7. ステップ#6で、次の操作を行い、データベースを構成します :

注意: [ツール]メニューから[サーバ管理にアクセスしている場合、およびインストールされているすべてのサービスが同じデータベース・サーバーを使用している場合、この手順にのみ使用可能です。



- a) データ・サーバの分野では、データ・サーバを選択します。

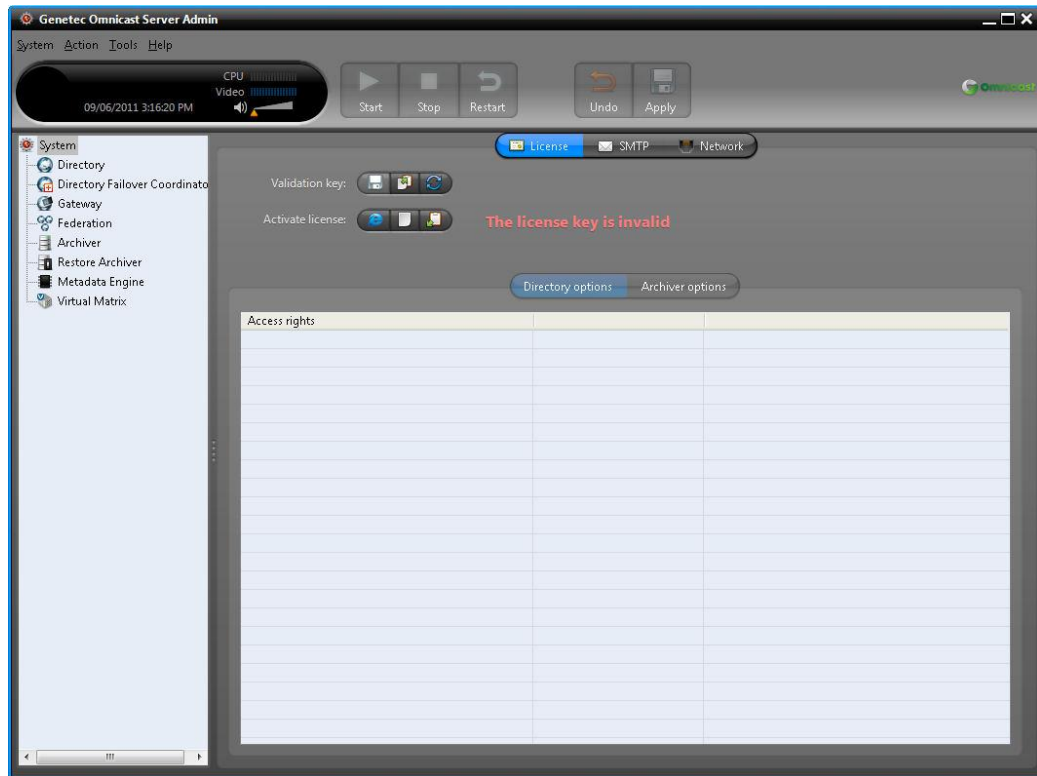
注意： この設定を変更すると、一度にすべてのサービスへのデータ・サーバを割り当てます。

- b) データ・サーバの接続をテストするには、テストをクリックしてください  ボタン。
- c) データ・サーバへの接続が確立されている場合は、適用をクリックしてください  ボタン。

- d) データ・サーバにサービスを接続するには、診断をクリックしてください。
- 接続が働いた場合は、データ・サーバのステータスは、成功は言う、およびデータベースのステータスが **OK** と言います。[次へ]をクリックします。
 - サービスは、データ・サーバに接続できなかった場合は、詳細なエラーメッセージが表示されます。たとえば、データベースが存在しない場合は、あなたが言われる、またはデータベースのバージョンが最新でない場合は、データベースをアップグレードしたい場合は、あなたが求められます。
- e) 接続が成功したか失敗した理由についての詳細を表示するには、[詳細]をクリックします。
8. ステップ #7 では、次の操作を行い、サービスを再起動します。
- 注意：** [ツール]メニューから[サーバ管理にアクセスしている場合 **Server** のインストール時にクライアントアプリケーションがまだインストールされていないため、この手順は、のみ使用可能です。
- サーバ管理設定ウィザードがある後にインストールされているすべてのサービスを再起動するには 閉じて、再起動サービスのオプションを選択します。
9. [完了]をクリックします。
10. ウィザードがでオプションを完了すると、あなたは、**configure** のライセンスを選択した場合 **ステップ 2**、「に進みます。あなたの **Omnicast** ライセンスをアクティブ化」。
11. サーバ管理を閉じます。
- あなたは **Omnicast** のサーバーをインストールするプロセスに残っている場合は、に進んで **ステップ 23 Server** のインストール手順インチ


5.2.2 は、あなたの Omnicast ライセンスをアクティブ化

インストール後に再びサーバ管理にログオンし、以前にライセンスをアクティブ化しなかった場合は、「ライセンスキーが無効である」と言うシステム[ライセンス]タブにエラーメッセージが表示されます。




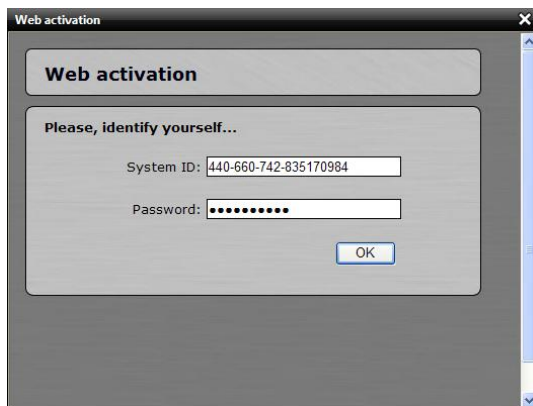
ライセンス]タブから、あなたの Omnicast ライセンスをアクティブ化するには2つの方法があります。

- **ウェブ活性化** (つかいます あなたがインターネットへのアクセスを持っている場合は、このオプション)
- **GTAP** (つかいます あなたがインターネットへのアクセスを持っていない場合は、このオプション)

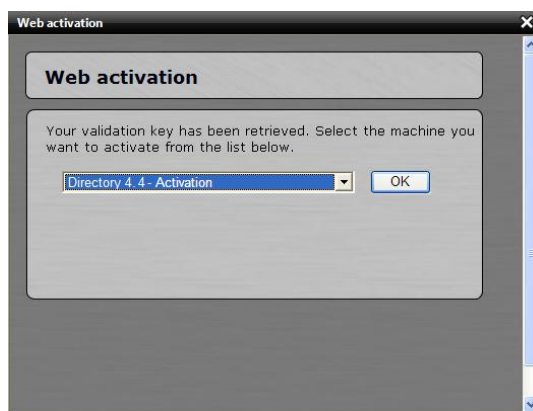
注意 あなたがいずれかの方法を使用してライセンスをアクティブ化しようとする、それが無効である場合、エラーメッセージは、起動が失敗した理由についての説明が表示されます。ライセンスは Omnicast の以前のバージョンのためである場合たとえば、あなたが言われます。検証キーが正しくない場合または、あなたは再生を押して、レジストリ内の検証キーを再生成するように要求されます  ボタン。

ウェブ活性化とライセンスを有効にするには：

1. システムエンティティライセンス]タブでは、**Web** からのライセンス認証をクリックしてください  ボタン。
2. ウェブアクティベーション]ダイアログボックスで、**18桁の Omnicast システム ID** とアクティベーションパスワードを入力します。これらは、ソフトウェアの購入時にゼネテック販売部門によって提供されました。



3. お使いのシステムは、複数のサーバが含まれている場合、あなたにライセンスを適用したいサーバを選択します。



4. [OK]をクリックします。お使いの設定が正しい場合、確認メッセージが表示されます。
5. [OK]をクリックします。あなたのライセンス情報は、サーバ管理に表示されます。

GTAP を通して、あなたのライセンスをアクティブにするには：

- 見る 「[GTAP を通して、あなたの Omnicast ライセンスのアクティブ化](#)」。

5.3 の Omnicast 4.8 SR8 クライアントのインストール

あなたがマシン上で初めての Omnicast クライアントをインストールしている場合は、この手順に従ってください。

1. お使いのコンピュータの DVD ドライブでの Omnicast インストール DVD を挿入します。InstallShield ウィザードが表示されない場合は、Omnicast のルートディレクトリに Setup.hta をダブルクリックします。
2. クライアントのインストール]をクリックします。



3. 欠落している前提条件ソフトウェアをインストールし、[インストール]をクリックし、画面の指示に従ってください。前提条件ソフトウェアのインストールが完了したら、[次へ]をクリックします。

インストールされている内容に応じて、インストールの途中でシステムを再起動するように指示することができます。再起動が要求されている場合は、インストールを完了するために行う必要があります。

4. 読み、使用許諾契約に同意し、[次へ]をクリックします。
5. Omnicast のクライアントが使用する言語を選択し、[次へ]をクリックします。これは、InstallShield ウィザードの言語には影響しません。

あなたは言語ツールを使用して、後での Omnicast ソフトウェアの言語を変更することができます。見る "ソフトウェアを変更します 言語" ページ上 21。

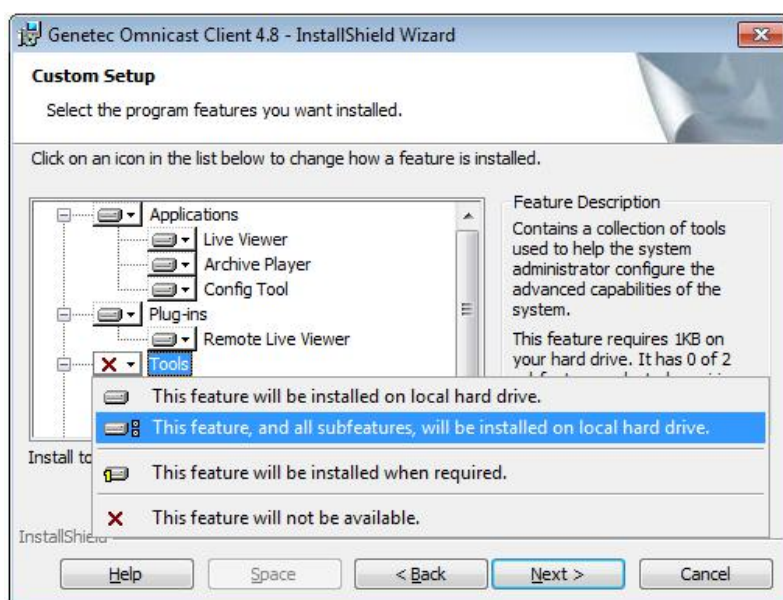
6. デフォルトのインストールフォルダを選択し、[次へ]をクリックします。別のインストールフォルダを選択するには、[変更]をクリックします。

注意： 関係なく、あなたがソフトウェアをインストールすることを選択した場所の、あなたには、少なくとも 2 を持っている必要があります

あなたの C の空き領域の GB : ドライブ (またはどこに Windows がインストールされている)、それ以外の InstallShield は、あなたが十分なスペースがないことを示しています。

7. タイプ選択]ウィンドウで、標準またはカスタムインストールを選択し、[次へ]をクリックします。
 - **典型的な** すべてのクライアントアプリケーション (ライブビューア、アーカイブプレーヤー、設定ツール、およびすべてのプラグイン) をインストールします。このオプションは、ほとんどのディスク領域が必要です。

- **カスタム** あなたがインストールたいプログラムの機能を選択することができます。このオプションは、上級ユーザーにお勧めします。右側に表示され、簡単な説明を参照するプログラムの機能を選択します。各機能のインストールに必要なスペースも示されています。あなたは、次の機能をインストールすることができます。
 - 設定ツール
 - ライブビューア
 - アーカイブプレーヤー
 - すべてのプラグイン
 - ツール (マクロエディタおよびレポートビューア)
 - オンラインヘルプ (あなたが設定ツール、ライブビューア、またはアーカイブ Player で F1 をクリックしてオンラインヘルプにアクセスすることができます)



注意： レポートビューアをインストールするには、実行中の SQL インスタンスは、ワークステーションからアクセス可能でなければなりません。

8. あなたがレポートビューアのインストールを選択した場合は、データベースサーバを選択するように求められます。
9. [次へ]をクリックします。
10. ファイアウォールルール]ウィンドウで、ゼネテックの **Omicast** クライアント 4.x のは、そのアプリケーションのために必要なファイアウォールルールを作成するために許可する]を選択します。
インストールされているすべてのクライアントアプリケーションがファイアウォールの例外として追加されていることを確認するには、このオプションを選択して、適切に機能することができます。
11. [インストール]をクリックします。
プログレスバーがインストール状態を示します。

12. あなたがアーカイブ Player をインストールすることを選んだと Windows 2008 R2 を使用している場合、メッセージは ASF 形式の動画をエクスポートするには、Windows デスクトップエクスペリエンス機能をインストールしなければならないことを言って、インストール時に表示されます。見る "[用デスクトップエクスペリエンス機能をインストールします。Windows 2008 の R2](#)」 ページの 20。



13. [OK]をクリックします。
14. インストールが完了したら、[完了]をクリックします。

5.3.1 は、Windows 2008 R2 用のデスクトップエクスペリエンス機能をインストールします。

Windows 2008 の R2 システム上の ASF 形式にビデオをエクスポートするには、Windows のデスクトップエクスペリエンス機能をインストールする必要があります。

1. [スタート]> [管理ツール]> [サーバーマネージャ]を選択します。
2. [機能の概要]セクションでは、機能の追加をクリックします。
3. インストール>デスクトップエクスペリエンス]チェックボックスを選択し、[次へ]をクリックします。

5.3.2 は、Windows 2012 R2 用のデスクトップエクスペリエンス機能をインストールします。

Windows の 2012 R2 システム上の ASF 形式にビデオをエクスポートするには、Windows のデスクトップエクスペリエンス機能をインストールする必要があります。

1. サーバーマネージャーを開き、その後、追加の役割と機能をクリックしてください。
2. あなたがページを開始する前に、[次へ]をクリックします。
3. 役割ベースまたはインストールタイプとして機能ベースのインストール]を選択し、[次へ]をクリックします。
4. 適切なサーバーを選択し、[次へ]をクリックします。
5. [次へ]をクリックして、[サーバーの役割の選択]ページをスキップします。
6. [機能の選択]ページで、ユーザーインターフェイスとインフラストラクチャを展開します。
7. デスクトップエクスペリエンス]チェックボックスを選択します。
8. >機能の追加]を[次へ]をクリックします。
9. インストールが完了すると、サーバーが再起動して、必要であれば[確認]ページで、自動的に再起動先のサーバーを選択します。

6 ソフトウェアの言語を変更します

あなたは言語ツールを実行することで、いつでもソフトウェアで使用される言語を変更することができます。

注意： あなたはそれを使用することができます前に、あなたの **Omnicast** ライセンスは、特定の言語をサポートしている必要があります。ドロップダウンリストで言語の可用性は、必ずしもあなたがそれを使用するためのライセンスを持っているという意味ではありません。他の言語の使用に関する情報については、「国際言語サポートを参照してください。

言語ツールを実行するには：

- [スタート]> [すべてのプログラム]> [ゼネテックの **Omnicast 4.8**]> [ツール]> [言語ツール]をクリックします。希望の言語を選択し、[OK]をクリックします。あなたがアプリケーションを再起動すると、それはあなたが選択した新しい言語になります。

以前の **Omnicast** のバージョンからのアップグレード 7

7.1 サポートされているアップグレードパス

Omnicast 4.8 SR8 はの **Omnicast** の以前のバージョンから次のアップグレードパスをサポートしています。

- 4.8 SR8 4.6 (すべてのバージョン)
- 4.8 SR8 4.7 (すべてのバージョン)
- 4.8 SR8 4.8 (すべてのバージョン)

7.2 アップグレードする前に

Omnicast をアップグレードする前に、このセクションの情報をお読みください。

Omnicast のバージョン **4.5 GA** で開始新しいライセンス手順があります。4.5 GA より前の **Omnicast** のバージョンのために取得したライセンスはいずれもの **Omnicast 4.8 SR8** では動作しません。ゼネテックテクニカルサポートに連絡し、それらにライセンスをアップグレードするには 1 営業日の最小値を許容します。それに応じてアップグレードをスケジュールしてください。

サーバーをアップグレードする前に、次の手順を実行します。

1. [スタート]> [コントロールパネル]> [管理ツール]> [サービス]をクリックします。
2. **services.msc** とから、すべての **Omnicast** サービスを停止します。
3. ウォッチドッグトレイアプリケーションを終了して閉じます。
4. バックの **Omnicast** サーバーのレジストリキーおよびすべての **Omnicast** データベースをバックアップします。詳細については、**Omnicast** の管理者ガイドの「バックアップツール」を参照してください。

あなたがサービスを実行するために、デフォルトのローカルシステムユーザー **OmnicastSvcUsr** を使用していない場合は、ログオン情報をご用意ください。

5. すべての **Omnicast** アプリケーション（設定ツール、サーバ管理、ライブビューワ、アーカイブプレーヤー）を閉じます。

7.3 4.8 SR8 への Omnicast 4.x からのアップグレード

以下の情報は、4.8 SR8 に以前の Omnicast のバージョンからアップグレードする方法について説明します。

注意： 管理者権限は、アップグレードを実行するために必要とされています。

7.3.1 アップグレードサーバー

あなたは、同じコンピュータ上で実行されているの Omnicast サーバーの 2 つのバージョンを持つことはできません。

1. 古いバージョンが存在するコンピュータ上の Omnicast 4.8 SR8 Server をインストールする場合、メッセージは、最新バージョンをインストールするかどうかを尋ねる表示されます。[OK]をクリックします。
2. サーバーインストールへようこそ]ウィンドウで、アップグレードプロセスを続行するか、インストールを停止するには、[キャンセル]をクリックして[次へ]をクリックします。
3. フォロー「[Omnicast 4.8 SR8 Server のインストールページの](#)」手順 8。

注意： サーバ管理設定ウィザードが開いたら、あなたはあなたの設定を再設定する必要はありません。、ステップをスキップスキップ]をクリックし、[サーバ管理を閉じます。

Omnicast サーバーの古いバージョンでは、アップグレード処理中に削除されます。

7.3.2 アップグレードプラグイン

Omnicast 4.4 以降では、プラグインの 2 種類、バージョン依存のプラグインとバージョン独立したプラグインがあります。

- **バージョン依存のプラグイン。** バージョン依存のプラグインはプラグインのバージョン 4.8 にアップグレードする必要があります。
- **バージョン独立したプラグイン。** あなたは、バージョン独立したプラグインをアップグレードする必要はありません。バージョン独立したプラグインは、バージョン 2.0 で始めます。バージョン独立したプラグインはの Omnicast 4.7 リリースサイクルの間に、最新バージョンにアップグレードすることができ、そして、まだの Omnicast 4.8 と互換性があります。

最新のプラグインパッケージはで、GTAP で見つけることができます

<http://gtap.genetec.com>。あなたは GTAP にログオンするためのユーザー名とパスワードが必要になります。

Omnicast のプラグインをアップグレードするには：

このセクションでは、すべてのプラグインのためのいくつかの一般的なアップグレード手順を示しています。個々のプラグインのアップグレード手順の詳細については、プラグイン独自のユーザーガイドを参照してください。このリリースで利用可能なプラグインの一覧とそれに対応するユーザーガイドのために、任意の Omnicast 4.8 ユーザーガイド「の Omnicast プラグインのマニュアルについて」を参照してください。

1. あなたのプラグインは、カスタム XML 設定ファイル（「イベントのマッピングファイル」と呼ばれる）を使用している場合は、ファイルのコピーを作成し、安全な場所に保管してください。

2. あなたはライブビュープラグインをインストールしている場合は、ローカルコンピュータ上でライブビューアを閉じます。
3. プラグインの古いバージョンをアンインストールし、設定ツールでそのインスタンスを削除します。
4. 新しいプラグインをインストールしてください。
5. あなたが他の場所で保存された 1 と、新しくインストールされた XML ファイルを上書きします。通常、この XML ファイルは、デフォルトで配置されています
 - C:\プログラムファイル\の Omnicast プラグイン 4.8 (バージョン依存プラグイン用)。

- C:\プログラムファイルの **Omnicast** プラグイン\<プラグイン名>。(バージョン独立したプラグインの場合)。
6. 次のいずれかを実行します。
 - あなたはメタデータエンジンのプラグインをインストールした場合は、メタデータエンジンを再起動します。
 - あなたはライブビューアプラグインや仮想マトリックスプラグインをインストールした場合は、仮想マトリックスを再起動します。
 7. 設定ツールを開き、アップグレードしたプラグインのインスタンスを選択して、それが新しいプラグインのインストールフォルダを指すように、イベント・マッピング・ファイルのパスを変更します。

注意： インストーラは、同じフォルダに配置しますので、別のバージョンの独立したプラグインからアップグレードする場合は、この手順は必要ありません。

7.3.3 アップグレードクライアント

Omnicast 4.8 SR8 はの **Omnicast** クライアントの以前のバージョンと同じマシン上にインストールすることができます。

Omnicast クライアントをアップグレードするには：

1. **Omnicast** クライアントの以前のバージョンが存在するコンピュータ上の **Omnicast** クライアントをインストールする場合、メッセージは、の **Omnicast** の新しいバージョンが古いバージョンと並行してインストールされることを示すが表示されます。
2. [OK]をクリックします。
3. クライアントのインストールようこそ]ウィンドウでは、以前のバージョンと並行して、現在のクライアントバージョンをインストールするか、インストールを中止するには、[キャンセル]をクリックして[次へ]をクリックします。
4. フォロー「[Omnicast 4.8 SR8 クライアントのインストールページの](#)」手順 18。

8 サイレントの **Omnicast** のインストールの実行

サイレントインストールでは、任意の質問に答える、またはインストールの過程で任意のプロンプトに回答する必要はありませんソフトウェアをインストールする自動化された方法です。あなたは、コマンドライン上で一連のコマンドを入力しての **Omnicast** のサイレントインストールを実行することができます。あなたは **Omnicast** のサーバーとの **Omnicast** クライアントのサイレントインストールを実行し、アプリケーションごとにインストールする機能を選択することができます。それぞれのケースでは、アプリケーションは任意の視覚的なフィードバックを提供せずにインストールされているので、質問やプロンプトを含むすべてのダイアログボックスはスキップされます。あなたは、サーバーインストールの途中でライセンスを入力するよう求められることはありません。そのため、インストール後に、それを入力する必要があります。

注意： 何かが完了することから、サイレントインストールを防ぐない状況では、アクションが必要な場合は、ユーザーに提供するいくつかの命令があるかもしれません。

あなたは、サイレントインストールをカスタマイズするために、コマンドラインに以下のタイプの情報を入力することができます。

- インストールの言語

- アプリケーション言語
- クライアントまたはサーバーのインストールパス
- インストールするには、クライアントまたはサーバーの機能
- サービスを実行するためのユーザー名とパスワード
- データベースサーバー名

8.1 のインストールおよび以前のソフトウェアバージョンからのアップグレード

あなたは、サイレントインストールのために、この文書で説明したものと同一コマンドを使用して、の **Omnicast 4.8 SR8** への **Omnicast (4.6, 4.7, 4.8)** の以前のソフトウェアバージョンからのサイレントアップグレードを実行することができます。

- ただ、サイレントインストールと同様に、サイレントアップグレードは非常に少数のプロンプトや視覚的なフィードバックを表示します。
- サーバーをアップグレードすると、サーバーソフトウェアの旧バージョンを削除し、1つのバージョンのみを同じコンピュータにインストールすることができるため、サーバーソフトウェアの新しいバージョンをインストールします。
- 同じコンピュータ上のクライアントソフトウェアの複数のバージョンが存在することができるので、クライアントをアップグレードすると、クライアントの他のバージョンと一緒にクライアントの新しいバージョンをインストールします。それらが不要になった場合は、手動でクライアントの古いバージョンを削除することができます。

8.2 サイレントインストールメカニズム

Omnicast は、**Windows** インストーラパッケージファイル (**MSI**) を使用して配布され、バックグラウンドで実行され、自動化されたプロセスを介してインストールすることができます。通常、通常のインストール時にユーザーによって入力されたプロパティは、コマンドラインで入力したとします。**msiexec.exe** に直接渡されます。

msiexec.exe の **MSI** ファイルをインストールするための責任を負うアプリケーションです。このアプリケーションは、通常、**C** に位置しています：**\WINDOWS\system32** に。

注：**msiexec.exe** を その経路は、参考のために与えられているように、この文書で説明するコマンドによって自動的に起動されます。

必要な場合は、**Windows** のタスクマネージャの[プロセス]タブでの **msiexec.exe** を監視することで、サイレントインストールの進捗状況を確認することができます。

サイレントインストールを実行すると、あなただけが必要な引数と一緒に、(クライアントまたは/Server) をインストールするアプリケーションのフォルダ内の **setup.exe** を実行する必要があります。**setup.exe** が自動的に **MSIEXEC.EXE** するコマンドを渡し、その **.msi** ファイルを使用してアプリケーションの設定を調整します。

8.3 始める前に

サイレントインストールを実行する前に、以下のことを考慮してください。

- サイレントインストールを実行する前に欠落している前提条件をインストールすることをお勧めします。あなたは、彼らが自動的にインストールされますされない場合は、しかし、あなたのマシンは、警告なしに再起動すると、サイレントインストール中断されます。あなたは、もともと入力した-でサイレントインストールを起動するために同じコマンドラインを起動して、サイレントインストールを再起動する必要があります。
- 必要に応じてゼネテックの **Omnicast** の **4.x** バージョン依存 **SDK** (**\の Omnicast 4.X VD SDK \VDSKD.EXE**) は、手動でインストールする必要があります。
- あなたは **Omnicast** のサーバーをインストールする場合は、の **Omnicast** が接続するデータベース・サーバーが使用可能であることを確認する必要があります。何も存在しない場合、あなたはあなたのシステム上の任意の **PC** 上でサイレントインストールを実行する前に、

サーバーPC上の Microsoft®SQL Server 2008 R2 の Express Edition をインストールすることができます。マイクロソフトの SQL Server 2008 R2 Express Edition の InstallShield は Omnicast の配布 DVD のフォルダ\サーバー\SQLEXPRESS に発見されました。

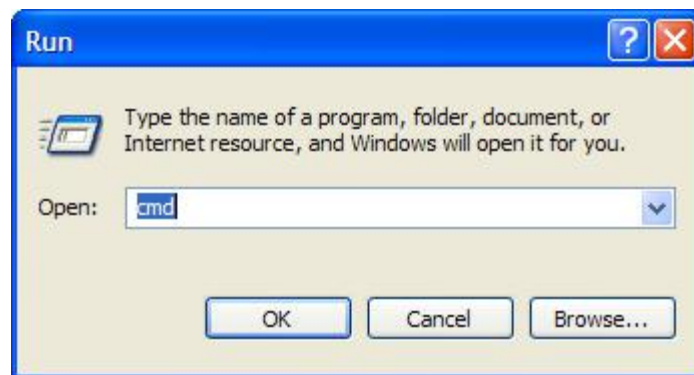
以下は、特定のインストールシナリオのために必要とされます。

- = ALL ADDLOCAL を使用してフルインストールを実行する場合、インターネットインフォメーションサービス (IIS) をインストールする必要があります。
- Omnicast のサービスが代わりの Omnicast が追加され、デフォルトのユーザー・アカウントの下で実行するためには、既存の Windows ユーザーアカウントを選択することができます。このケースでは、「サービスとしてログオン」ユーザー権利を持っており、それは、Administrators グループの一部である Windows ユーザーアカウントのユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
- Windows は、あなたが管理者権限を持っていない使用しているアカウントと、インストールは失敗します。

あなたが明示的にこれらの値を入力しない場合は、デフォルトが自動的に正しいユーザー権限と特権を与えられている使用されています。参照する [SERVICEUSERNAME](#) そして [SERVICEPASSWORD](#) に ページ 31。

8.4 コマンドラインを使用

コマンドラインを開くには、[スタート]> [ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスの [すべてのプログラム]> [ファイル名を指定して実行タイプ cmd] を。



一般的に、あなたは黙ってインストールするアプリケーションのための `setup.exe` との `.msi` ファイルが置かれているフォルダに、コマンドラインを指します。詳細については、「を参照してください。サイレントインストール 機構」 ページ上 24。

あなたが C のルートに (すべての Omnicast クライアントファイルを含む) フォルダクライアントを置いている場合たとえば、:\ドライブを、そしてあなたは Omnicast のクライアントのサイレントインストールを実行するには、コマンドプロンプトで次のように入力します。

c: 次いで、CD クライアントを入力 (C ドライブのルートに切り替えます)。C : クライアント \> コマンドプロンプトは現在、クライアントの Setup.exe ファイルを含むディレクトリを指している必要があります。

注意 コマンドラインは、850 文字の最大に制限されています。詳細については、「を参照してください。コマンドライン文字制限」 ページの 35。

高度なインストール方法を使用して、あなたは例えば、引用符でコマンドラインからの `setup.exe` のフルパスを参照することができます、「C : \の Omnicast \ゼネテック\クライアント \setup.exe を」 (パスにスペースが含まれていません)。だけでなく、バッチファイルからサイレントインストールコマンドを実行しています。

9 サイレントインストールコマンドライン構文

9.1 基本的な構文

Omnicast のサイレントインストールのための基本的な構文を実行するには：

- コマンドプロンプトで、インストールするアプリケーションの **setup.exe** を含むフォルダを指す、次のように入力します。

```
C : \> setup.exe /L [インストール言語] /S /V "/QN INSTALLDIR=[インストールパス]"
```

ここで、[インストール言語]はインストーラが使用する言語であり、[インストールパス]ソフトウェアをインストールする必要があるパスです。

9.2 セットアップの引数

セットアップの引数は **SETUP.EXE** の動作を決定します。次の引数は必須です。上記のイタリック体の `- /v` の引数のためのオプションのインストールプロパティは、後に文書で覆われています。

引数	関数						
<code>/L</code>	<p>インストーラの言語を設定します。</p> <p>注意： 正常に完了したサイレント・インストールでは提供しますが視覚的なフィードバック、サイレントインストールが完了できない場合があるかもしれませんいくつかの視覚的なフィードバック。この場合は、<code>/L</code> 引数によって設定された言語であります中古。</p> <p>この引数は、アプリケーションが一度使用する言語を設定するものではありませんそれがインストールされています。参照する LANGID ページ上 32 これを行う方法について。</p> <p>しかし、無価値のためであれば LANGID の、そして言語与えられ、インストール - <code>/L</code> の値を使用して - オペレーティングを決定しアプリケーションの言語。</p> <p>2 次のインストール言語が用意されています。</p> <table border="1"><thead><tr><th>言語</th><th>対応する ID</th></tr></thead><tbody><tr><td>英語</td><td>1033</td></tr><tr><td>フランス語 (カナダ)</td><td>3084</td></tr></tbody></table> <p>警告： <code>/L</code> と言語コードの間にスペースを入れないでください。 例：<code>/L1033</code></p>	言語	対応する ID	英語	1033	フランス語 (カナダ)	3084
言語	対応する ID						
英語	1033						
フランス語 (カナダ)	3084						
<code>/s</code>	<p>黙って何の質問やプロンプトがありませんので、実行するための setup.exe を設定します。 表示されました。</p>						
<code>/V] <プロパティ></code>	<p>msiexec.exe を直接引用符の間のいずれかのプロパティを渡します 実行可能</p> <p>警告： <code>/v</code> と引用符で囲まれたプロパティの間にスペースを入れないでください。</p>						

9.3 インストーラの引数

インストーラの引数は、すぐにセットアップ引数 /v 以下の二重引用符で囲んで入力されます。彼らは動作するように、どのようなインストール方法をインストーラ (msiexec.exe) を教えてください。

引数	関数
/QN	何の質問やプロンプトが表示されていないので、黙って実行するの InstallShield を設定します。
/の L * V [パスおよび名前のログ]	詳細形式ですべての情報を含むログファイルを生成します。パスを入力し、引数以下のログファイルに付けたいと名前、 注意 : /l * v があります /V の二重引用符内に現れる引数 下記のオプションのインストールプロパティと一緒に引数。 例 : /! *vc : \install.log

10 のサイレントインストールのプロパティ

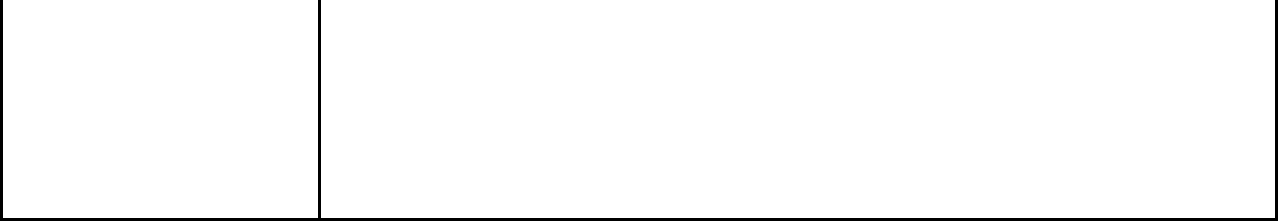
次はすぐ /V の引数を以下の二重引用符で入力することができるオプションのプロパティです。これらのプロパティは、機能がインストールされ、どのようにされているかを判断するために msiexec.exe のために送信されます。プロパティ名とその値は大文字と小文字を区別しません。すべてのプロパティはオプションです。デフォルトは、該当する場合与えられています。

一般的なプロパティ	説明
INSTALLDIR	ソフトウェアがインストールされているパス。 パスにスペースがある場合は、引用符でラップする必要があります。それぞれの引用符は、バックスラッシュ (\) を付ける必要があります。 例 : INSTALLDIR = "C : \プログラムファイル\ゼネテックの Omnicast サーバー4.8 \"

一般的なプロパティ	説明																			
<p>ADDLOCAL</p>	<p>インストールする機能サーバーとクライアントを指定します。 次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> あなたは完全インストールを実行したい場合は次のように入力します。 ADDLOCAL = ALL インストールする特定の機能を選択したい場合は、最初に入力します。 リソース。 例えば、インストール 助けて、 LiveViewer、および ArchivePlayer、あなたは最初に入力します。 リソース。 <p>インストールする特定の機能を選択したい場合は下記の表は、使用されていません。 各機能は、あなたがそれのために入力可能な値が続いているかどうか機能に値を入力する必要がある、そしてあなただけ入ることができるかどうかではありません 1つの機能の値、またはいくつかを入力することができます。複数の値を入力する場合 カンマで区切ります。 Omnicast Server の機能：</p> <table border="1" data-bbox="553 905 1442 1606"> <thead> <tr> <th>特徴</th> <th>可能な値</th> <th>細部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リソース</td> <td>リソース リソース値 ローカライズを可能にします インストール中の機能ソフトウェア。</td> <td>必須、除きます 入るとき ADDLOCAL = ALL</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ウェブ</td> <td rowspan="2">ウェブ</td> <td>オプション</td> </tr> <tr> <td>一つの値</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ツール</td> <td rowspan="2">ツール</td> <td>オプション</td> </tr> <tr> <td>一つの値</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">助けて</td> <td rowspan="2">助けて</td> <td>オプション</td> </tr> <tr> <td>一つの値</td> </tr> </tbody> </table>		特徴	可能な値	細部	リソース	リソース リソース値 ローカライズを可能にします インストール中の機能ソフトウェア。	必須、除きます 入るとき ADDLOCAL = ALL	ウェブ	ウェブ	オプション	一つの値	ツール	ツール	オプション	一つの値	助けて	助けて	オプション	一つの値
特徴	可能な値	細部																		
リソース	リソース リソース値 ローカライズを可能にします インストール中の機能ソフトウェア。	必須、除きます 入るとき ADDLOCAL = ALL																		
ウェブ	ウェブ	オプション																		
		一つの値																		
ツール	ツール	オプション																		
		一つの値																		
助けて	助けて	オプション																		
		一つの値																		

一般的なプロパティ		説明		
ADDLOCAL		特徴	可能な値	細部
サービス		ディレクトリ アーカイバ FOS RestoreArchiver ゲートウェイ MetadataEngine フェデレーション VirtualMatrix AuxiliaryArchiver	オプション	一つ以上 値
フェデレーション バージョン		Fed35 Fed42 Fed43 Fed44 Fed45 Fed46 Fed47 Fed48 連盟を入力します - 上記のサービスに記載されて います - Omnicast がインストールさ れます フェデレーションサーバ ー。それから あなたは示す必要がありま す Omnicast のバージョンのも の によって統合することがで き の一つ以上を入力 プロパティがリストされて います。 例 ：に Fed45 を入力しま す。 連携することができます Omnicast 4.5 システム。 注意 ： あなたが入力した場合 フェデレーションバージョンなし 連盟に入ります プロパティ、連盟 Server は、とにかくインストールされています。	一つ以上 値	
例 ：		ADDLOCAL =リソース、ヘルプ、ディレクトリ、ゲートウェイ、連盟、Fed46		

一般的なプロパティ	説明	
ADDLOCAL	Omnicast クライアント機能 :	
	特徴	可能な値
	リソース	リソース リソース値 ローカライズを可能にします インストール中の機能 ソフトウェア。
	アプリケーション	LiveViewer ArchivePlayer ConfigTool 注意 : あなたが指定した場合 インクルード ArchivePlayer 特徴、 それはまた、あなたが作成 することができます Web 対応のコピー スタンドアロンのアーカイ ブプレイヤー ビデオと一緒に使用します アーカイブからエクスポート プレイヤー。
	プラグイン	RemoteLiveViewer
	ツール	MacroEditor レポートビューアー
	助けて	助けて
		細部 必須、除きます 入るとき ADDLOCAL = ALL オプション 1つ以上の値 オプション 1つ以上の値 オプション 1つ以上の値 オプション 一つの値
例 : ADDLOCAL = 資源、LiveViewer、ArchivePlayer、ヘルプ		



サーバーのプロパティ	説明
ISPRIMARYFOS	<p>ディレクトリは、DFC の設定でプライマリまたはセカンダリであるかどうかを示します。ザ・プロパティには、プライマリとしてディレクトリを設定するには、1 に設定することができます 二次ディレクトリとして設定するディレクトリまたは 0。0 に設定すると、ディレクトリサービスは手動に設定され、年末に開始されることはありません インストール。デフォルト値は 1 です。 例： ISPRIMARYFOS = 0</p>
PRIMARYSYSTEM	<p>で使用する（プライマリディレクトリ名とポートを指定します。ゲートウェイが接続しようとしているに ISPRIMARYFOS）。のみ もし、関連します ISPRIMARYFOS = 0。 デフォルトのポートは 7998 です。 例： PRIMARYSYSTEM = PrimarySystemName : ポート</p>
GTWCONNECTEDTO	<p>ゲートウェイは、ディレクトリまたは別のものに接続するかどうかを指定します ゲートウェイ。あなたは A に常駐している別のゲートウェイへのゲートウェイを接続します あなたがからのマルチキャストストリームを受信したい、異なるネットワーク リモートネットワーク。場合にのみ適用 ISPRIMARYFOS = 0。これは、1 つに設定することができます 2 つの値の： ディレクトリ 若しくは ゲートウェイ。 デフォルト値は ディレクトリ。 例： GTWCONNECTEDTO = GATEWAY</p>
IS_SQLSERVER_SERVER	<p>すべてのサービスのデータベースサーバー名を指定します。 注意： 特定のサーバー名にすべてのサーバーを設定するには、このプロパティを使用します。もし、あなたが 指定したデータベースサーバー名の個々のサービスのため、これらも優先 このプロパティの値は、- 以下を参照してください。 例： IS_SQLSERVER_SERVER = (ローカル) \の Omnicast</p>
SERVICEUSERNAME	<p>サービスが使用するユーザー名を指定します。 注意： ユーザ名と対応するパスワードは、最初に作成する必要があります これらのプロパティを使用する前に右の資格情報を持ちます。彼らはする必要があります 管理者および「サービスとしてログオン」ユーザー権利を持っています。 例： SERVICEUSERNAME =。 \ゼネテック</p>
SERVICEPASSWORD	<p>サービスが使用するパスワードを指定します。 注意： ユーザ名と対応するパスワードは、最初に作成する必要があります これらのプロパティを使用する前に右の資格情報を持ちます。彼らはする必要があります 管理者および「サービスとしてログオン」ユーザー権利を持っています。 例： SERVICEPASSWORD = anypassword</p>
ENTITY_SERVER	Directory データベース・サーバ（が取って代わります）

	IS_SQLSERVER_SERVER)
ENTITY_DATABASE	Directory データベース (エンティティ構成)
ALARM_SERVER	ディレクトリアラームデータベースサーバー (が取って代わります IS_SQLSERVER_SERVER)
ALARM_DATABASE	ディレクトリアラームデータベース
REPORTING_SERVER	ディレクトリレポートデータベースサーバー (が取って代わります IS_SQLSERVER_SERVER)

サーバーのプロパティ	説明								
REPORTING_DATABASE	ディレクトリレポートデータベース								
ARCHIVING_SERVER	アーカイバ・データベース・サーバ (が取って代わります IS_SQLSERVER_SERVER)								
ARCHIVING_DATABASE	アーカイバデータベース								
AUXILIARY_SERVER	補助アーカイバデータベースサーバ (が取って代わります IS_SQLSERVER_SERVER)								
AUXILIARY_DATABASE	補助アーカイバデータベース								
RESTORE_SERVER	アーカイバデータベースサーバ (が取って代わるの復元 IS_SQLSERVER_SERVER)								
OBJECT_SERVER	メタデータ・データベース・サーバ (が取って代わります IS_SQLSERVER_SERVER)								
OBJECT_DATABASE	メタデータデータベース								
LANGID	<p>Omnicast サーバーとクライアントアプリケーションとセットで使用する言語 MachineSettings.xml インチ ザ・ LANGID プロパティは /L とは異なっています 引数。 LANGID 使用されるすべてのテキストに使用されるどの言語を決定 Omnicast アプリケーション全体、および設定することと同じです から入手できる言語ツールを使用してアプリケーション言語、 Windows の[スタート]メニュー、ゼネテックの Omnicast 4.x の時>ツール >言語 ツール。 ザ・ /L 引数は唯一の言語を決定するために使用されます InstallShield、とのオペレーティング言語には影響しません アプリケーションとき LANGID 使用されている。見る "基本的な構文" ページ上 26 ために /L の引数の詳細。 ザ・ LANGID プロパティは、に対応する番号で設定することができるい ずれか の名の下に示されるように、言語 ID、または言語名 DLL ファイル。入力された言語が見つからない場合、英語が使用されてい ます。もし 指定されているいかなる言語は、の Omnicast は同じ言語を使用していま せん インストール (/L 引数によって設定されました)。 あなたは以下の言語名を使用するか、またはそれらに対応することができます 言語 ID (LANGID)。</p> <table border="1" data-bbox="613 1732 1179 2026"> <thead> <tr> <th data-bbox="613 1732 821 1829">言語名</th> <th data-bbox="821 1732 1179 1829">対応する ID</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="613 1829 821 1896">アラビア語</td> <td data-bbox="821 1829 1179 1896">1025</td> </tr> <tr> <td data-bbox="613 1896 821 1963">チェコ</td> <td data-bbox="821 1896 1179 1963">1029</td> </tr> <tr> <td data-bbox="613 1963 821 2026">オランダの</td> <td data-bbox="821 1963 1179 2026">1043</td> </tr> </tbody> </table>	言語名	対応する ID	アラビア語	1025	チェコ	1029	オランダの	1043
言語名	対応する ID								
アラビア語	1025								
チェコ	1029								
オランダの	1043								

英語	1033
フランス語	3084
ドイツ人	1031
イタリアの	1040

サーバーのプロパティ	説明									
LANGID	日本語	1041								
	韓国語	1042								
	ペルシアの	1065								
	研磨	1045								
	ポルトガル語	2070								
	ロシア	1049								
	簡体 中国の	2052								
	スロバキア	1051								
	スペイン語	1034								
	タイ	1054								
	伝統的な 中国の	3076								
	<p>例：イタリアあなたが以下のいずれかの値を使用することができます。 LANGID = 1040 LANGID = イタリア ア</p>									
リブート	<p>Server のインストールが完了した後に再起動を強制または抑制するために使用されます。</p>									
	<p>一般的には、インストール後にシステムを再起動する必要はありません。ただし、再起動は、いくつかの状況で必要になることがあります。ためにたとえば、クリーンなマシンにインストールする場合、いくつかの前提条件であってもよいです再起動を必要とする設置。</p>									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="605 1461 820 1549">可能値</th> <th data-bbox="824 1461 1490 1549">結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="605 1558 820 1646">F</td> <td data-bbox="824 1558 1490 1646">リブート時にインストールを強制的に完了です。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="605 1654 820 1814">S</td> <td data-bbox="824 1654 1490 1814">1 以外のすべての再起動を抑制します ForceReboot 操作によって引き起こされる - を参照 上記。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="605 1822 820 1938">R</td> <td data-bbox="824 1822 1490 1938">によって引き起こされる任意の再起動を抑制します Windows インストーラのアクション。</td> </tr> </tbody> </table>	可能値	結果	F	リブート時にインストールを強制的に完了です。	S	1 以外のすべての再起動を抑制します ForceReboot 操作によって引き起こされる - を参照 上記。	R	によって引き起こされる任意の再起動を抑制します Windows インストーラのアクション。	
	可能値	結果								
	F	リブート時にインストールを強制的に完了です。								
S	1 以外のすべての再起動を抑制します ForceReboot 操作によって引き起こされる - を参照 上記。									
R	によって引き起こされる任意の再起動を抑制します Windows インストーラのアクション。									
F	リブート時にインストールを強制的に完了です。									
S	1 以外のすべての再起動を抑制します ForceReboot 操作によって引き起こされる - を参照 上記。									
R	によって引き起こされる任意の再起動を抑制します Windows インストーラのアクション。									
<p>例： REBOOT = S</p>										

11 サイレントインストールの例

以下の実施例は、異なるシナリオの下でのサイレントインストールを行う示します。

注意： あなたのインストールのための基盤として機能するように、コマンドラインにこれらの例をコピーして貼り付けることができます。

11.1 サーバのサイレントインストールの例

次のサーバーをインストールするためのコマンドラインの例です。

例 1：

Setup.exe の / L1033 / S / V」 / QN ADDLOCAL =リソース、ディレクトリ、アーカイバ INSTALLDIR = C : \ NEWSERVER SERVICEUSERNAME =、 \ TOTO の SERVICEPASSWORD =パスワード ENTITY_SERVER = (ローカル) \ の Omnicast ENTITY_DATABASE = DirectorySQL REBOOT = S"

Archiver は下で実行するためのサービスのために特定のユーザ名とパスワードを使用してインストールされます。ファイルは、そのパス C である新しいフォルダにインストールされています : \ NEWSERVER。ディレクトリサーバとデータベース名が指定され、何の再起動は発生しません。インストールは静かに実行されます。言語は、インストーラの用途は英語となります。

例 2：

Setup.exe の / L1033 / S / V」 / QN INSTALLDIR = \ "C : \ プログラムファイル \ ゼネテックの Omnicast サーバー-4.8 \ " ADDLOCAL =リソース、ディレクトリ、アーカイバ、ゲートウェイ、VirtualMatrix、ヘルプ、連盟、Fed45、Fed46、Fed4 7"

ディレクトリ、アーカイバ、ゲートウェイ、仮想マトリックスおよびヘルプファイルは静かにインストールされています。同様に、フェデレーションサーバーがインストールされている、そしてバージョン 4.5、4.6 であり、4.7 の Omnicast システムが連携することができます。言語は、インストーラの用途は英語となります。

例 3：

Setup.exe の / L3084 / S / V」 / QN"

典型的なインストールでは、静かに実行されます。言語は、インストーラの用途はフランス語となります。

例 4：

Setup.exe の / L1033 / S / V」 / QN ADDLOCAL = ALL"

完全インストールは静かに実行されます。言語は、インストーラの用途は英語となります。

例 5：

Setup.exe の / L1033 / S / V」 / QN ADDLOCAL = ALL IS_SQLSERVER_SERVER = (ローカル) \ SQL2005 / の L * V C : \ Serverlog.log"

完全インストールは静かに実行されます。すべてのサービスが使用するデータベースサーバー名は IS_SQLSERVER_SERVER 値を使用して設定されます。ログファイルが作成され、C のルートに置かれている : ドライブ。言語は、インストーラの用途は英語となります。

例 6：

Setup.exe の / L1033 / S / V」 / QN ADDLOCAL = ALL LANGID = 1041"

完全インストールは静かに実行されます。Omnicast は言語 1041（日本語）を使用します。言語は、インストーラの用途は英語となります。

11.2 クライアントのサイレントインストールの例

以下のクライアントをインストールするためのコマンドラインの例です。

例 1 :

**Setup.exe の / L1033 / S / V」 / QN INSTALLDIR = C :
 \ GENETEC_ の PATH ADDLOCAL = リソース、ヘルプ、LiveViewer、
 ArchivePlayer"**

ライブビューア、アーカイブプレーヤーおよびヘルプファイルは静かにインストールされます。言語は、インストーラの用途は英語となります。

例 2 :

**Setup.exe の / L3084 / S / V」 / QN INSTALLDIR = \ "C : \プログラムファイル\ゼネテックの Omnicast クラ
 イアント 4.8 \"
 ADDLOCAL = リソース、ヘルプ、LiveViewer、ArchivePlayer、ConfigTool"**

ライブビューア、設定ツール、アーカイブプレーヤー、およびヘルプファイルは静かにインストールされます。言語は、インストーラの用途はフランス語となります。

例 3 :

Setup.exe の / L3084 / S / V」 / QN"

これは静かに行う標準インストールと同じです。言語は、インストーラの用途はフランス語となります。

例 4 :

Setup.exe の / L1033 / S / V」 / QN ADDLOCAL = ALL"

これは静かに行う完全インストールに相当します。言語は、インストーラの用途は英語となります。

例 5 :

Setup.exe の / L1033 / S / V」 / QN ADDLOCAL = ALL LANGID = 1029"

これは静かに行う完全インストールに相当します。言語は、インストーラの用途は英語となります。Omnicast (クライアントアプリケーション) は、言語 1029 (チェコ) を使用します。

12 のサイレントインストールの制限

12.1 コマンドライン文字制限

最大のコマンドラインの長さは 850 文字です。全体的なコマンドラインの長さを短くするために有用な問題を回避するには、入力されたため、インストールパスの長さを短くすることで **INSTALLDIR** プロパティ。あなたは、リモートでそれらを参照するよりもはるかに短いパスにつながるすることができますローカルドライブにインストールファイルをコピーしていただくことができます。

以下に説明するように、あなたはまた、**setup.exe** ファイルのパスにネットワークドライブをマッピングすることができます。

マップまたはコマンドラインからドライブを切断するために **net use** コマンドを使用します。

あなたは、バッチファイルやスクリプトで `net use` コマンドを使用することができます。
ネットワークドライブをマップするには：

1. [スタート]ボタンをクリックし、[実行]をクリックします。
2. [名前]ボックスに、**cmd** と入力します。
3. ネット利用の **x** 入力 : \\コンピュータ名\共有名を、ここで、**x** : あなたが共有リソースに割り当てるドライブ文字です。

マップされたドライブを切断するには :

1. [スタート]ボタンをクリックし、[実行]をクリックします。
2. [名前]ボックスに、**cmd** と入力します。
3. ネット利用の **x** を入力します/削除、**x** はここで共有リソースのドライブ文字です。

これらの手順のソースの場合、および詳細については、を参照

<http://support.microsoft.com/?scid=kb%3Ben-us%3B308582&x=1&y=11>。